



郷土史

ていね

第53号
平成24年5月9日
手稲郷土史研究会会報

定期総会・懇親会開催

● 定期総会

4月11日には、定期総会と懇親会が行われました。

総会は、國井和男会長の挨拶のあと、平成23年度の事業報告、収支決算報告、平成24年度の事業計画、役員選任などの案件について審議され、可決されました。

特記されることとしまして、第6号議案（役員選出）におきまして、会長の交代がありました。このように活気ある当会を育ててくださった國井和男会長には敬意を表したいと存じます。ご寄稿いただいた新旧両会長のご挨拶を次に掲載させていただきます。

その他の議案の詳細については、「定期総会議案書」をご覧ください。

茂内義雄会長挨拶

今年度の役員選出で、当研究会を立ち上げて下さった國井和夫会長の跡を引き継がさせていただきました。身の引き締まる思いです。

さて手稲町の歴史をひもときますと、手稲の開基は明治5年（1872）の仙台藩白石城主、片倉小十郎旧臣上手稲村移住をもって始まりとします。辰歳の2012年は、正に手稲開基140年メモリアルとしても位置づけられそうです。

当会の設立は平成17年の秋であり、日浅しの感は否めません。しかし会員同士の精力的な頑張りで、手稲史140年の基礎学習は終えられたかなと考えます。今後こうした学習の成果が、この会を必要とさせる多くの皆さんに提供できるよう、一層自己研鑽に努めて参りましょう。

なお私どもの会の特筆すべき事項としましては、大正の御世から昭和一桁世代の歴史に造詣の深い先輩方が大変多く、毎月の定例会で夜遅い時間にもかかわらず出席されているということです。

このような学ぶ姿勢の大事さを身近に感じとれる手稲研を誇りに思いつつ、会長就任のご挨拶とさせていただきます。



國井和夫前会長 退任のご挨拶



この度、会長のバトンを茂内さんにお渡しして、退任することとなりました。

在任中の4年間は、当研究会も、月例研究を中心に、サークル活動も盛んで、草創期にもかかわらず、その真摯な学び合いの成果は「手稲郷土史年表」や「手稲鉾山のあらまし」の刊行に結実するという、活気に満ちた学習を共に進めることが出来たことは、誠に幸せなことでした。

新会長の茂内義雄さんには、手稲の歴史に造詣が深く、発足当初から、当研究会の屋台骨を支え、年毎の研究テーマの設定、巾広い人脈を生かしての講師の選定、また、部会の指導など、まさに八面六臂のご活躍を頂いております。

茂内会長のリーダーシップは、必ずや当研究会をより豊かに前進させて頂けるに違いありません。私は、今後も一会員として、楽しく学ばせて頂きながら、この研究会の発展に少しでもお役に立つことがあれば、と考えておりますので、何卒、変わらぬご交誼を賜りますようお願い申し上げます。

次回の予定

次回（6月13日）は、鈴木玲氏の研究発表「手稲区内の河川に見られる生き物」と井塚重男氏の研究発表「手稲一万歩を歩く」を予定しております。

齊藤隆夫・土谷聖史両氏に 月例研究講座精勤賞を授与



懇親会スナップ

来賓の方々



新入会員



懇話会

